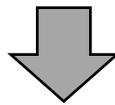




資料の扱いについて

先日の道徳推進校連絡協議会で、岐阜聖徳学園大学の山田貞二准教授が以下のように話していました。

基本発問は、中心発問を深く考えさせるための補完的な発問。登場人物の心情や考えを問う内容が多く、状況把握が中心となる。必ず必要な発問ではなく、状況把握がしやすい教材であれば省略しても構わない。ただし、生活経験の浅い低学年は、基本発問を丁寧に行った方がよい。



- ☆生活経験の浅い低学年は、経験から考えることが難しいため、資料の場面や状況から登場人物の心情などについて考える時間を多めに設定する。
- ☆学年が上がるにつれ、経験を基に自分事として考える時間を多く設定していく。
- ※内容項目によっては、必ずしもそうとは限らない。
- ※児童の経験が浅いような内容項目であれば、中学年や高学年も資料を用いて考える時間が多くなる場合もある。

道徳科の板書について

毎時間、授業の板書を掲示してくださりありがとうございます！11月の研究発表に向けて指導案を作成するにあたり、板書計画も立てると思います。そこで、鳳至小として統一して板書に書く内容の再確認をお願いします！

基本スタイル（価値や資料によって板書が変わる）

左（Before） → 中（資料の価値を構造化） → 右（After）

